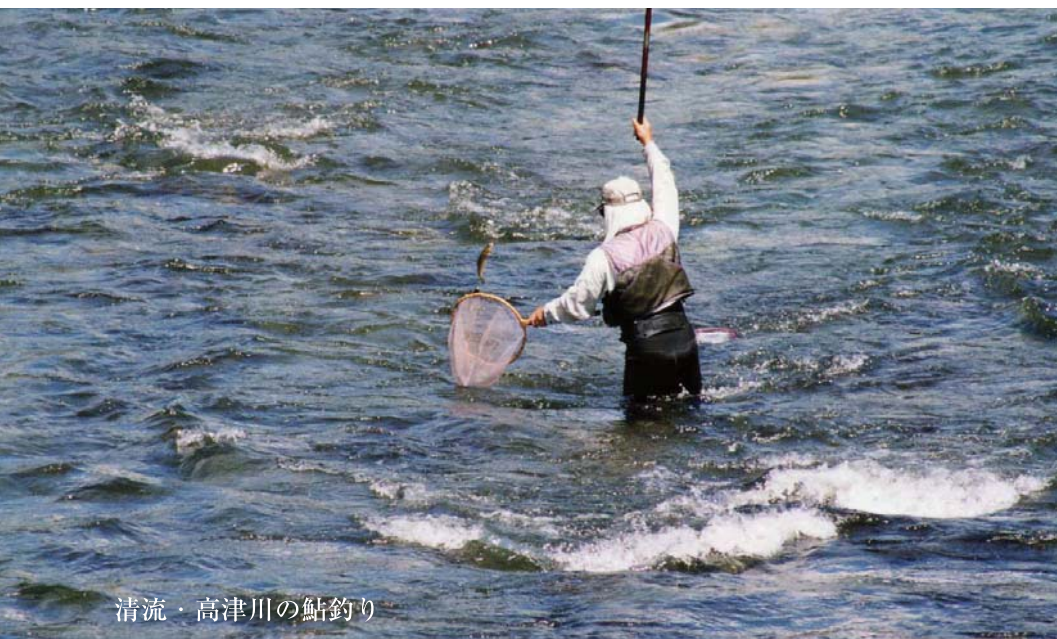


川面から立ちのぼる雲海の揺りかごにそとくるまれた、  
赤い瓦の家並が連なる城下町。  
ブナの森から湧き出てくる、命育む清冽な川の流れ。  
清流に抱かれた自然豊かな水と緑のまちで、時を忘れて、心洗うひとときを。

# 清流に抱かれたまち



清流・高津川の鮎釣り

吉賀町に源を発し、津和野町を貫流して日本海に注ぐ清流「高津川」。支流を含めてダムが一つもない、今や日本唯一の一級河川で、'07年には水質日本一に認定されました。(国土交通省・全国一級河川水質調査)

かつて徳川夢声が「これはこれ日本一の鮎どころ」と絶賛したように天然鮎やツガニ(モクズガニ)、ウナギなど豊かな川の幸をはぐくむ清流として知られ、中でも正月の雑煮には干し鮎が欠かせないほど、昔から鮎は身近な食材として親しまれてきました。

下左鐙地区には、数々の伝説や言い伝えのある「千八尋の滝」があります。近年、展望台や遊歩道が整備され、その神秘的な姿を見られるようになりました。



朝霧に浮かぶ津和野城址



安蔵寺山ミズナラの林



自然観察会

津和野という地名は「つわぶきの生い茂る野」がルーツといわれます。そんな津和野を象徴する山が「青野山」。標高九〇八メートルのトロイデ式休火山で、おわんを伏せたようなやさしい山の姿が古くから人々を魅了してきました。

西中国山地国定公園の西端には、標高二二六三メートルの安蔵寺山がそびえています。なだらかな登山道沿いにはブナ原生林が広がり、樹齢五百年と推定されるミズナラの大樹も迎えてくれます。

大樹といえば、池村(堤田地区)には島根県で最も大きな木があります。樹齢約五百年のクスノキで、周囲十二・五メートル、樹高三十一メートル。大人十一人でやっと一回りできるほど大きく、県の天然記念物に指定されています。

清流と山々の豊かな自然に抱かれた津和野のまち。そこに住む人、訪れる人の心をこれからも優しくはぐくんでいきます。



千八尋の滝



モリアオガエルの生息する地倉沼

高津川の「恵み」



ツガニ(モクズガニ)



鮎